

第一三共株式会社
代表取締役社長 兼 COO
眞鍋 淳様

検証目的

SGSジャパン株式会社(以下、当社)は、第一三共株式会社(以下、組織)からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象(以下、GHG等に関する主張)について、検証基準(ISO14064-3:2006及び当社の検証手順)に基づいて検証を実施した。

本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHG等に関する主張について、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。

検証範囲

検証対象範囲は、組織とその国内グループ製造及び非製造の拠点、海外グループ製造2拠点であり、対象期間は2017年4月1日～2018年3月31日である。

GHG排出量は、Scope1,2(国内外のエネルギー起源の二酸化炭素排出量及び廃棄物焼却に伴う非エネルギー起源の二酸化炭素排出量)、Scope3(カテゴリー1:購入した原材料及び仕入品)を対象としている。水使用量及び排水量は国内外12拠点、廃棄物発生量は国内10拠点、水質(BOD、COD)は公共用水域に排水している国内5拠点を対象としている。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証:検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証:第一三共ケミカルファーマ株式会社館林工場、北里第一三共ワクチン株式会社北本事業所の現地検証、本社での証憑突合及びその他検証対象範囲に対する分析的手続き及び質問

判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.3)、組織が定めた手順(購入した製品・サービスに関わるGHG排出量算出業務フロー)、サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer2.5を用いた。

結論

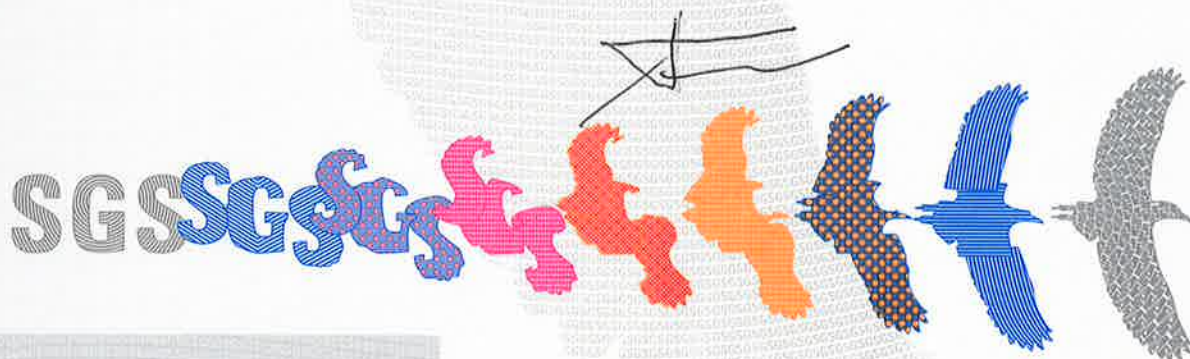
前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関する主張(Scope1:85,639 t-CO₂(国内:84,283 t-CO₂、海外:1,356 t-CO₂)、Scope2:100,549 t-CO₂(国内:85,382 t-CO₂、海外:15,167 t-CO₂)、Scope3:646,985 t-CO₂)が、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社

認証・ビジネスソリューションサービス
事業部長
上級経営管理者

竹内 裕二



第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 COO 眞鍋 淳様

検証目的

SGSジャパン株式会社(以下、当社)は、第一三共株式会社(以下、組織)からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象(以下、GHG等に関する主張)について、検証基準(ISO14064-3:2006及び当社の検証手順)に基づいて検証を実施した。

本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHG等に関する主張について、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。

検証範囲

検証対象範囲は、組織とその国内グループ製造及び非製造、海外グループ製造 2 拠点、対象期間は2016年4月1日～2017年3月31日である。

GHG 排出量は、Scope1,2(国内外のエネルギー起源の二酸化炭素排出量及び廃棄物焼却に伴う非エネルギー起源の二酸化炭素排出量)、Scope3(カテゴリー1:組織と第一三共ヘルスケア株式会社で購入した原材料及び仕入品)を対象とし、水使用量及び排水量は、検証対象範囲の内、国内外 12 拠点、廃棄物発生量及び水質(BOD、COD)は、国内 10 拠点を対象としている。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証: 検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証: 第一三共プロファーマ株式会社高槻工場、第一三共ケミカルファーマ株式会社小名浜工場の現地検証及び証憑突合、その他検証対象範囲に対する分析的手続及び質問

判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.2)及び組織が定めた手順を用いた。

結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関する主張が、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社

認証・ビジネスソリューションサービス
事業部長
上級経営管理者

竹内 裕二



検証意見書

2016年6月17日

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO 中山 譲治様

検証目的

SGSジャパン株式会社(以下、当社)は、第一三共株式会社(以下、組織)からの依頼に基づき、組織が算定した温室効果ガス排出量(以下、GHGに関する主張)について、ISO14064-3:2006(以下、検証基準)に基づいて検証を実施した。

本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHGに関する主張について、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。

検証範囲

検証対象範囲は、第一三共グループの国内製造及び非製造14拠点であり、対象期間は2015年4月1日～2016年3月31日)である。温室効果ガス排出量は、Scope1,2、Scope3(カテゴリー1)を対象としている。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証：第一三共プロファーマ株式会社平塚工場、第一三共ケミカルファーマ株式会社小田原工場及び第一三共本社ビルA館/B館の現地検証及び証憑突合、その他検証対象範囲に対する本社における分析の検証及び質問

判断基準は、環境省の温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.0)及び組織で定めた基準を用いた。

結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHGに関する主張が、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

SGSジャパン株式会社

認証・ビジネスソリューションサービス事業部長
上級経営管理者

竹内 裕二

